

## 甘利大臣記者ぶら下がりの概要

日時：平成27年4月21日（火）3：50～4：00

場所：中央合同庁舎8号館

### 【冒頭発言】

一昨日19日の夜から先程まで米国フローマン通商代表と私とで日米間の残された課題であるコメを含む農産品と自動車について、これまでの事務レベルでの協議を踏まえ、閣僚間で大変厳しい協議を続けてきた。双方の夜を徹した努力により、2国間の距離は相当狭まってきたが、コメを含む農産品及び自動車については、依然として課題が残っており、まだ合意までには努力を要する。両大臣は、双方のチームに、残された課題に対処するための作業を継続するよう指示をした。交渉は最終局面にある。国益を最大限に実現すべく、引き続き早期妥結に向けて全力を尽くす。

### 【質疑応答】

（記者）今後、12か国の会合の前にも日米閣僚協議はさらに必要な状況か、見通しを教えてください。

（大臣）事務方にこれに対処すべく、両大臣から指示を下ろした。その進展により、必要があれば、閣僚協議が行われるということだと思う。

（記者）28日に日米首脳会談が予定されているが、そこに向けた地ならしは十分にできたと考えるか。

（大臣）相当に進展したことは事実であるから、首脳会談としては、それを歓迎できるのではないかと思う。

（記者）必要があれば閣僚でということ、必要ない可能性もあるということか。

（大臣）残された課題を事務折衝で詰めていった結果であるので、それは分からない。

（記者）先ほどコメを含むと発言したが、コメの問題と自動車の問題がやはり大きな問題なのか。

（大臣）もちろんそうである。そして、TPPは、そこが大事な点であるが、全体をパッケージでセットするということなので、全体を同時決着に向けて進めていくということ。

（記者）最大の山場とおっしゃっていたが、期待より進んだのか、進まなかったのか。

（大臣）2国間の閣僚協議を行った意義があると思っている。

(記者) ギャップが縮まったのは、アメリカも一定の譲歩をしたと考えていいか。  
(大臣) もちろんである。交渉ごとは、一方が一方的に歩み寄ることではない。双方が歩み寄ること。これは、前から私が申し上げているとおりである。

(記者) 本日の協議の前に、自動車部品が一番に進展に期待が持てると言っていたが、実際にどこに進展が感じ取られたか。

(大臣) 自動車部品はもちろん進展したが、まだ最終決着はついていない。自動車本体、部品、そして農産品、それぞれ課題は残っている。それを、全体を同時決着に向けて、引き続き事務方が汗をかくということ。

(記者) 報道では、主食用のコメについて、日本とアメリカの主張のギャップが埋まるかどうか注目されているが、そこについてはどうか。

(大臣) 非常に厳しい交渉を続けてきたが、まだ課題は残っている。

(記者) 総理がテレビ番組で、9合目に達しているのだが、その先に進むのが中々難しいという発言をしていたが、9合目の先、どの程度まで進んだのか。

(大臣) フローマン代表と会談を始めるとき、お互いに富士山の何合目という話はやめようという話を向こうから言われた。

(記者) T P A 法案と今後の交渉の関係、また、今回の協議の中で先方からどのような説明があったか。

(大臣) 最初の日には T P A 法案の進捗状況についての説明があった。かなり精力的に取り組んでいるし、順調に進んでいるという話であった。

(記者) 事務方に指示した折衝はいつから始まるのか。

(大臣) 明日からでも。

(記者) 12か国の閣僚会合で大筋合意できそうな見通し、可能性はどのくらいか。

(大臣) まだ何とも言えない。ただ、日米が明確な進展はしつつあるということなので、他の国との関係も動き始めると思う。元々、各国とも T P A の動きがない限り、交渉をこれ以上進めるのは難しいという立場であったので、T P A の見通しが立ってくると、日米がさらに進みだしたと、この2つを合わせると、他の国との交渉も最後の大詰めに向けて動き出していくと思う。

(記者) 事務折衝をカトラー氏は残ってやるのか。

(大臣) カトラー氏は、明日は残っているはず。

(以上)